研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-110		21-070	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Years of life lost due to alcohol-related mortality: A nationwide population study in Poland, 1999-2017

アルコール関連の死亡による損失生存年数：1999 年から 2017 年のポーランドでの全国的な人口調査

執筆者

Beata Ciabiada-Bryła, Irena Maniecka-Bryła, Paulina Paciej-Gołębiowska

掲載誌

Drug Alcohol Depend. 2021 Oct 1;227:108990. doi: 10.1016/j.drugalcdep.2021.108990.

キーワード	PMID
アルコール関連疾患、死亡率の傾向、早期死亡、SEYLL	34482047

要　旨

目的：ポーランドでは、飲酒が潜在的な早期死亡の原因であることが示されている。 2000 年から 2014 年までの消化器系疾患死亡に関するデータ分析により、損失生存年数（YLL）の主な原因として肝線維症と肝硬変、アルコール性肝疾患、急性膵炎が確認された。さらに、2011 年の研究では、肝硬変が、交通事故と自殺に続いて、3 番目に重要な YLL の原因であることが明らかになっている。本研究では、1999 年から 2017 年までのポーランドにおけるアルコール関連 YLL を評価した。

方法：1999-2017 年のポーランドの死亡診断書のデータベースを用い、ICD-10 コードよりアルコール関連疾患死亡者を特定した。YLL は、標準予想寿命損失年数（SEYLL）測定値を使用して計算した。なお、SEYLL は、調査対象集団のサイズと関連するため、100,000 人あたり（SEYLLp）で計算した。経年的な時間の傾向は、ジョインポイント回帰分析によって解析した。

結果：1999-2017 年の死亡者 7,168,765 人のうち、112,512 人（男性 94022 人, 女性 18510 人)がアルコール関連疾患により死亡した。1999 年の SEYLLp 値は、男性で 653.99 年/10 万人、女性で 71.20 年/10 万人であり、2017 年には、それぞれ 1,263.76 年/10 万人、293.10 年/10 万人と増加した。時間傾向分析により、SEYLLp 値は男性（年間 3.68%）よりも女性（年間 8.69%）でより急速に増加した。また、男性は、各アルコール関連疾患において、女性よりも有意に長く予想寿命年を損失していたが、男性と女性の SEYLLp 値の比率は、研究期間中に 9.18 (1999 年)から 4.31 (2017 年)に減少した。

結論：ポーランドでは、男性と女性の両方においてアルコール関連 YLL が悪化している。ただし、女性の YLL 値がより急速に悪化しており、YLL の男女差は徐々に減少していた。